

2022年3月期 通期決算概況

2022年5月20日

株式会社 J-オイルミルズ

問い合わせ先：

コーポレートコミュニケーション部 Tel:03-5148-7101

Agenda

- 1 2021年度 通期決算概況
- 2 2022年度 業績予想
- 3 中期経営計画の見直し
- 4 参考資料

2021年度 連結業績概要

2021年度 通期業績

(億円)	前期	当期	前年比	3/30 通期予想	予想比
売上高	1,648.2	2,015.5	+22.3%	2,000.0	+0.8%
営業利益/営業損失	66.9	▲0.2	-%	▲3.0	-%
経常利益	73.7	6.0	▲91.9%	3.0	+98.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	52.5	19.5	▲62.8%	16.0	+22.1%

2021年度実績

- 原料価格高騰を受けた価格改定とミール価格の上昇により増収
- 価格改定と継続的なコストダウンを進め収益基盤の強化に努めたが、急激な原料価格高騰の影響を吸収できず、大幅減益
- ケミカル事業譲渡、投資有価証券売却益、遊休資産売却益など特別利益の計上
- 油脂加工品事業と若松工場精製工程の減損損失の計上

※収益認識に関する会計基準変更に伴う影響額（売上高▲13億円、営業利益・経常利益+0億円）

2021年度 セグメント別業績

2021年度 通期業績

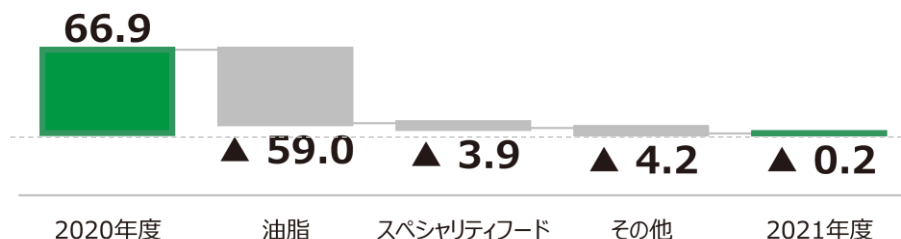
(億円)	前期	当期	前年比	3/30 通期予想	予想比
売上高					
油脂事業	1,389.0	1,783.6	+28.4%	1,769.0	+0.8%
スペシャルティフード事業	196.1	211.3	+7.7%	212.0	▲0.3%
（内 油脂加工品事業）	121.3	127.0	+4.7%		%
（内 テクスチャーデザイン・ファイン）	74.8	84.3	+12.6%		%
その他事業	63.1	20.6	▲67.4%	19.0	+8.3%
連結合計	1,648.2	2,015.5	+22.3%	2,000.0	+0.8%
営業利益					
油脂事業	62.2	3.3	▲94.8%	0.4	+713.7%
スペシャルティフード事業	▲2.3	▲6.2	-	▲5.7	-
（内 油脂加工品事業）	▲4.4	▲8.7	-		-
（内 テクスチャーデザイン・ファイン）	2.2	2.5	+13.2%		%
その他事業	6.9	2.7	▲60.4%	2.3	+18.9%
連結合計	66.9	▲0.2	-%	▲3.0	-%

2021年度 営業利益増減分析

対前年同期実績

【セグメント別営業利益 増減】

単位：億円



*販売促進費・・・収益認識に関する会計基準変更に伴う影響+12.5

【油脂事業 営業利益増減分析】

単位：億円

原材料コスト内訳

大豆	▲132.4
菜種	▲231.6
為替*	▲23.6
購入油	▲40.1
他	▲4.1

高付加価値品の販売

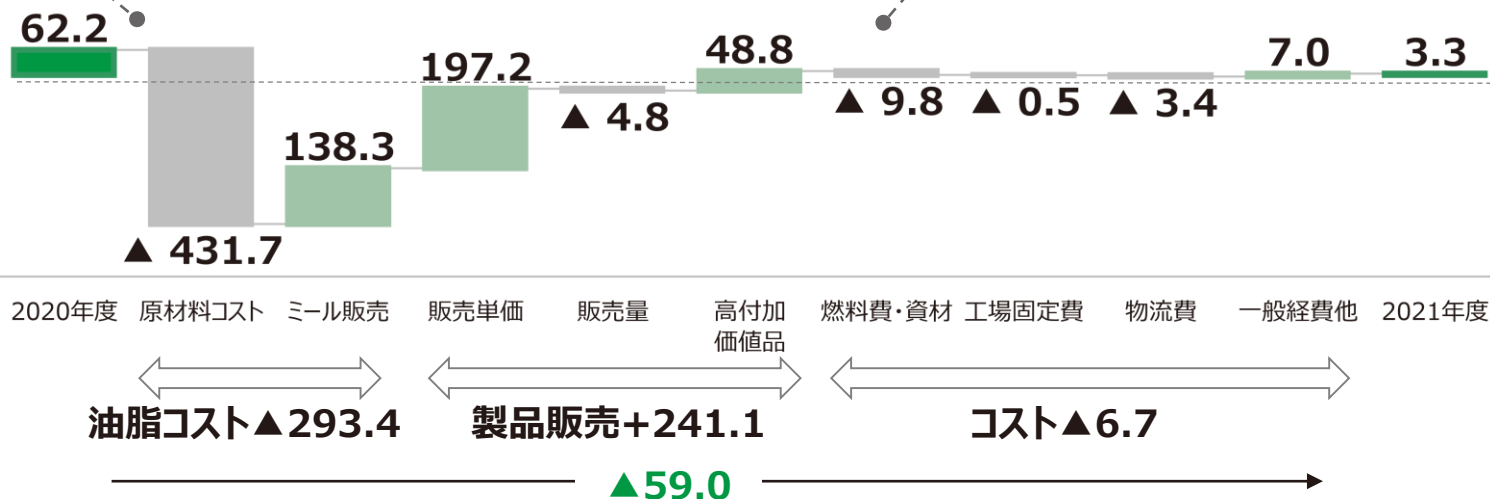
家庭用	▲8.3
業務用	+57.1

燃料費・資材内訳

資材	▲1.3
燃料	▲3.4
ユーティリティ	▲5.2

一般経費他内訳

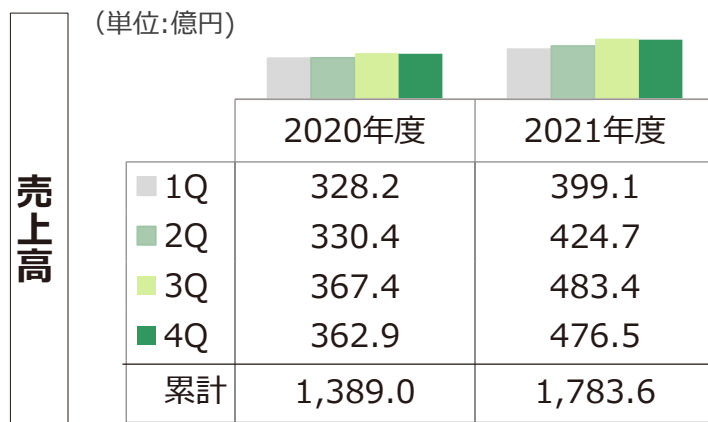
人件費	+0.8
広告費	▲2.2
販売促進費*	+11.8
その他	▲3.4



*為替・・・20年度:107円/1ドル、21年度:110円/1ドル

セグメント別業績：油脂事業

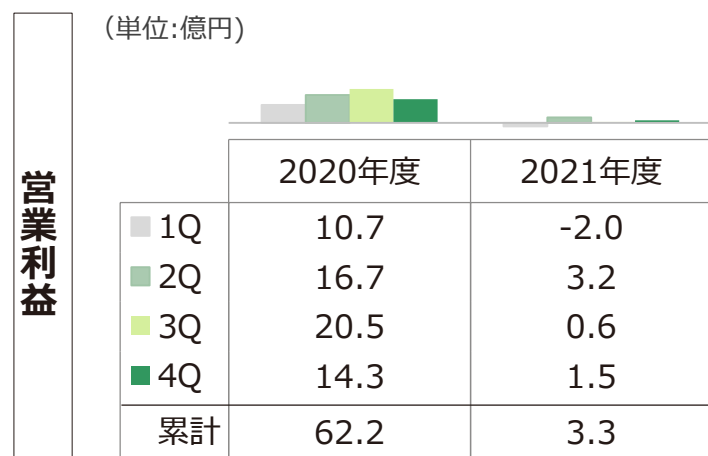
- 原料価格高騰を受けた価格改定への注力とミール価格の上昇により増収
- 価格改定への注力と拡販に努めたが、急激な原料価格高騰の影響を吸収できず大幅減益



【売上高構成比】

(単位:億円)

	2020年度		2021年度		増減	
	金額	構成比	金額	構成比	金額(率)	構成比(差)
家庭用油脂	267.0	19.2%	262.5	14.7%	▲1.7%	▲4.5%
業務用油脂	753.6	54.3%	940.4	52.7%	24.8%	▲1.5%
ミール類	368.4	26.5%	580.8	32.6%	57.6%	6.0%
合計	1,389.0	100.0%	1,783.6	100.0%	28.4%	-



【営業利益増減分析】

(単位:億円)

	営業利益	前年差		
		価格	物量	原材料他
家庭用油脂		+ 17.8	▲ 5.5	
業務用油脂		+ 216.9	+ 11.9	
ミール類		+ 132.8	+ 5.6	
合計	▲ 59.0	+ 367.5	+ 12.0	▲ 438.4

高付加価値品の状況

- 家庭用油脂については競争環境の激化に伴い、売上高が前年を下回った一方で業務用油脂、スターチ、ファインなどは販売数量を伸ばし、売上高は好調に推移した。
- 大豆・菜種およびパーム油、オリーブ油などの購入油の原料価格上昇の影響を受け、粗利益率は悪化

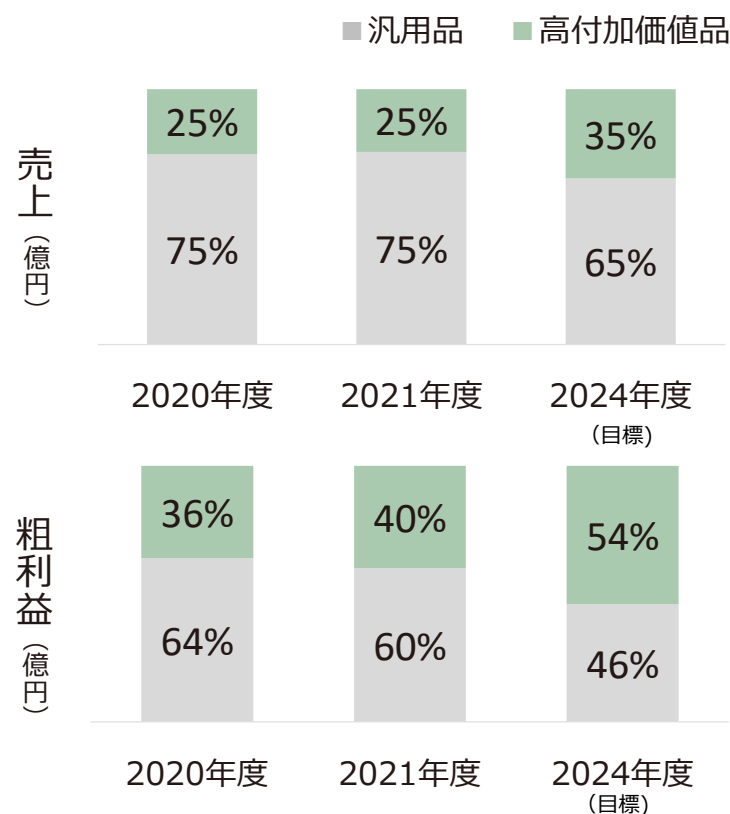
【高付加価値品推移】

		2020年度	2021年度	対前年 増減率
高付加 価値品	売上高	423.3	500.7	+18.3%
	粗利益	123.2	105.9	▲14.0%
	粗利益率	29.1%	21.2%	▲7.9ppt

【セグメント別売上高】

		2020年度	2021年度	対前年 増減率
油脂 事業	家庭用	134.8	123.2	▲8.6%
	業務用	199.3	275.1	+38.0%
	合計	334.1	398.3	+19.2%
スペシャルティフード事業		89.2	102.5	+14.8%
高付加価値品合計		423.3	500.7	+18.3%

【高付加価値品 連結構成比】



B/Sの状況

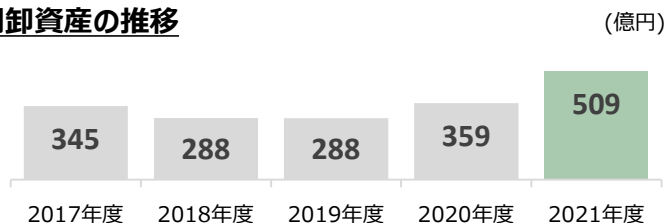
- 総資産は投資有価証券等が減少するも、棚卸資産の増加により前年期末から増加
- 負債は原料調達コスト上昇による有利子負債の増加により前年期末から増加

連結貸借対照表

	20年期末	21年期末	増減
流動資産	827	942	115
現預金	78	36	▲ 43
売上債権	360	351	▲ 8
棚卸資産	359	509	150
その他	29	46	17
固定資産/繰延資産	738	675	▲ 63
有形・無形資産	569	542	▲ 28
投資その他	169	133	▲ 36
資産 計	1,565	1,617	52

・原材料価格上昇による棚卸資産の増加

棚卸資産の推移



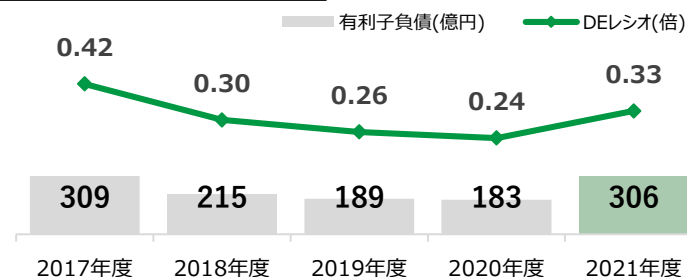
・投資有価証券・資産売却による資産圧縮

(億円)

	20年期末	21年期末	増減
負債	620	672	51
仕入債務	186	171	▲ 16
有利子負債	183	306	123
引当金	51	43	▲ 8
その他	199	151	▲ 48
純資産	945	945	0
株主資本	895	900	5
包括利益他	46	42	▲ 5
非支配株主持分	4	4	▲ 0
負債・純資産 計	1,565	1,617	52

・原材料価格上昇と価格改定の遅れによる有利子負債の増加

※有利子負債・DELシオ推移



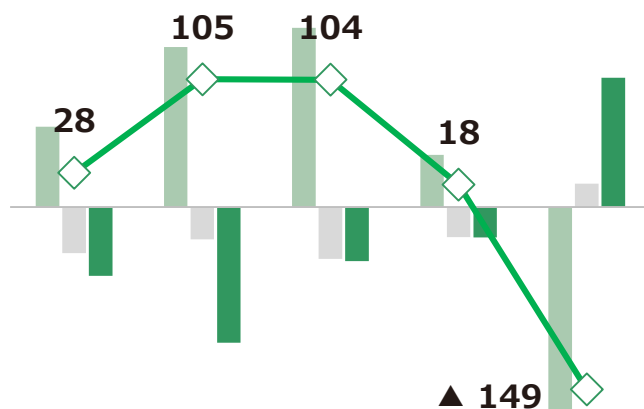
※有利子負債・・・社債と借入金の合計値を使用

C/Fの状況

- 価格改定に先行する形で原料価格が上昇した事により営業キャッシュフローが大幅に悪化
- 投資有価証券や遊休資産売却等を進める事で資産効率改善に努める

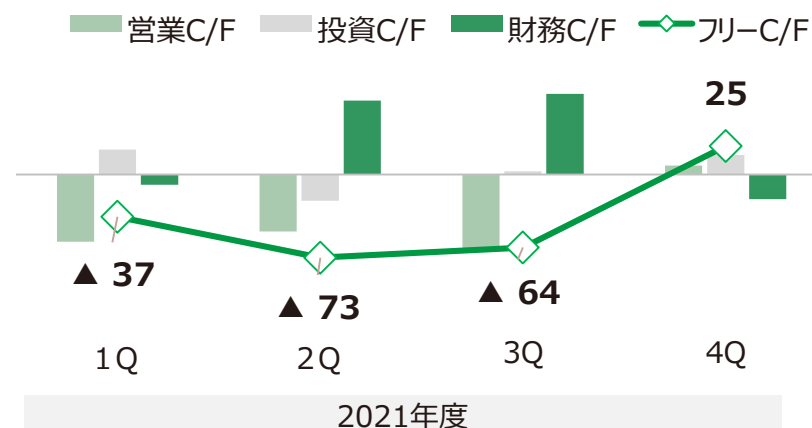
【キャッシュフロー推移】

単位：億円



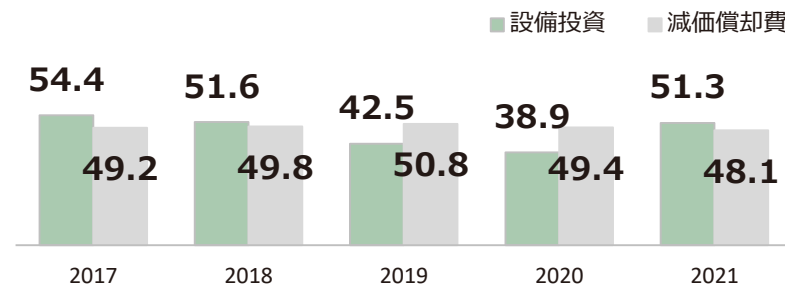
	2017	2018	2019	2020	2021
営業C/F	66	131	146	43	▲ 168
投資C/F	▲ 38	▲ 26	▲ 42	▲ 24	19
財務C/F	▲ 56	▲ 111	▲ 44	▲ 25	106
フリー-C/F	28	105	104	18	▲ 149

【四半期別推移】



【設備投資の状況】

(億円)



Agenda

- 1 2021年度 通期決算概況
- 2 **2022年度 業績予想**
- 3 中期経営計画の見直し
- 4 参考資料

2022年度 連結業績予想

2022年度 業績予想

(億円)	2020年度	2021年度	2022年度			前年差	前年比
	通期	通期	上期	下期	通期		
売上高	1,648.2	2,015.5	1,200.0	1,400.0	2,600.0	+584.5	+29.0%
営業利益/営業損失	66.9	▲0.2	0.0	10.0	10.0	+10.2	-%
経常利益	73.7	6.0	1.5	11.5	13.0	+7.0	+117.8%
親会社株主に 帰属する当期純利益	52.5	19.5	0.0	12.0	12.0	▲7.5	▲38.6%
営業利益率	4.1%	▲0.0%			0.4%	+0.4PPT	
ROE	5.7%	2.1%			1.3%	▲0.8PPT	

2022年度

- 原料コスト上昇に加えて為替の円安進行、原油相場上昇によるエネルギーコスト上昇も重なり大幅なコスト増を見込む。
- 価格改定と戦略的なマーケティング投資、構造改革による生産効率の改善をスピード感と実行力をもって取り組むことで、収益性の改善に努める。

2022年度 セグメント別業績予想

2022年度業績予想

(億円)	2020年度	2021年度	2022年度	前年差	前年比
売上高					
油脂事業	1,389.0	1,783.6	2,343.0	+559.4	+31.4%
スペシャルティフード事業	196.1	211.3	253.0	+41.7	+19.7%
（内乳系PBF）※	121.3	127.0	156.0	+29.0	22.8%
（内食品素材）※	74.8	84.3	97.0	+12.7	+15.1%
その他事業	63.1	20.6	4.0	▲16.6	▲80.6%
連結合計	1,648.2	2,015.5	2,600.0	+584.5	+29.0%
営業利益					
油脂事業	62.2	3.3	8.0	+4.7	+145.8%
スペシャルティフード事業	▲2.3	▲6.2	2.0	+8.2	-
（内乳系PBF）※	▲4.4	▲8.7	▲0.8	+7.9	-
（内食品素材）※	2.2	2.5	2.8	+0.3	+14.0%
その他事業	6.9	2.7	0.0	▲2.7	▲100.0%
連結合計	66.9	▲0.2	10.0	+10.2	-

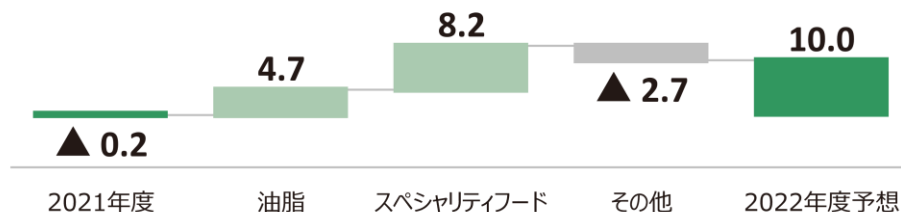
※2022年度より油脂加工品を乳系PBFに名称変更、テクスチャーデザインとファインを食品素材事業に統括

2022年度予想 営業利益増減分析

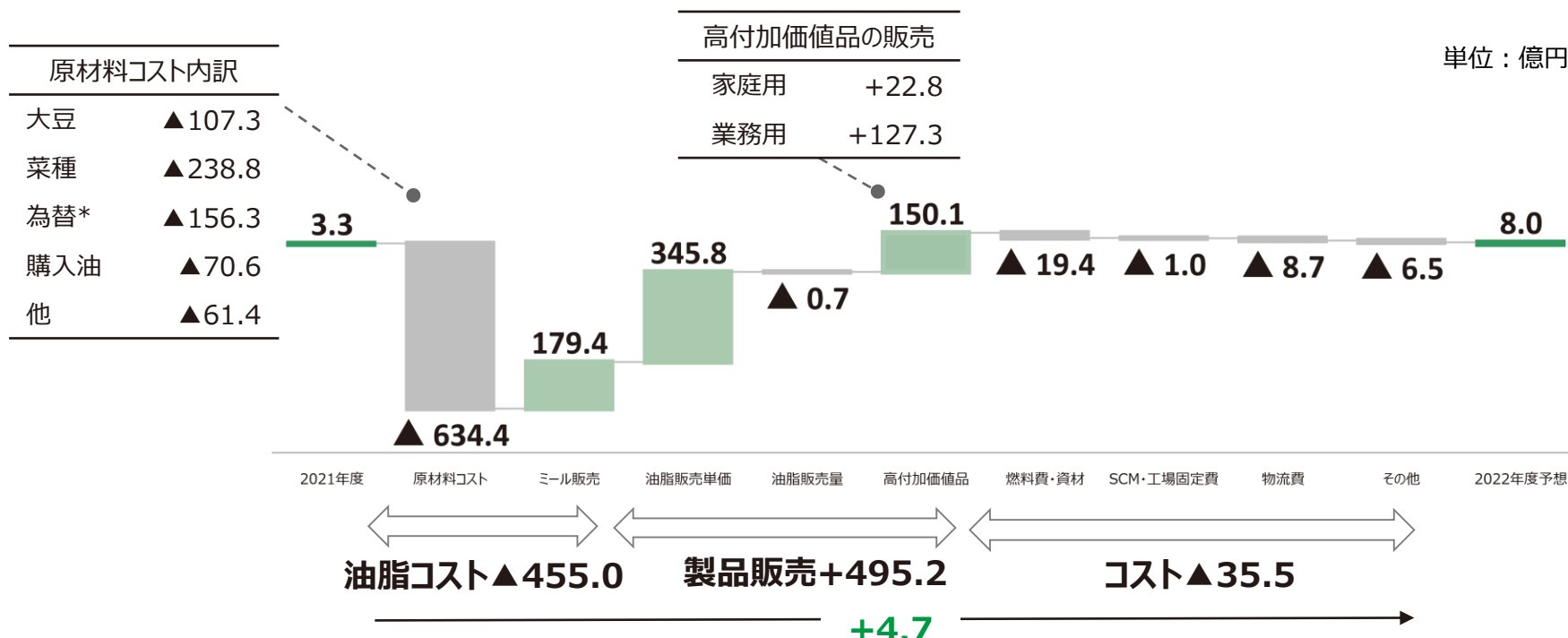
対前年同期実績

【セグメント別営業利益 増減】

単位：億円



【油脂事業 営業利益増減分析】

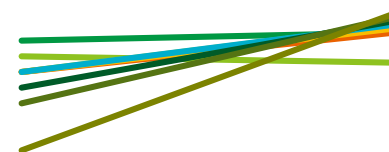
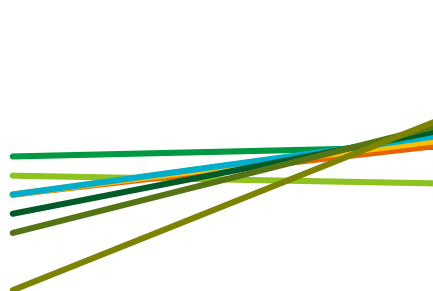


*為替・・・21年度:110円/1ドル、22年度:127円/1ドル

Agenda

- 1 2021年度 通期決算概況
- 2 2022年度 業績予想
- 3 中期経営計画の見直し
- 4 参考資料

第六期中期経営計画の進捗



FY21実績

FY22計画

第六期中計
2021～2024

売上高

2,015.5億円

6へ 2,600億円

2,200億円

営業利益

▲0.2億円

10億円

110億円

営業利益率

0.0%

0.4%

5.0%

ROE

2.1%

1.3%

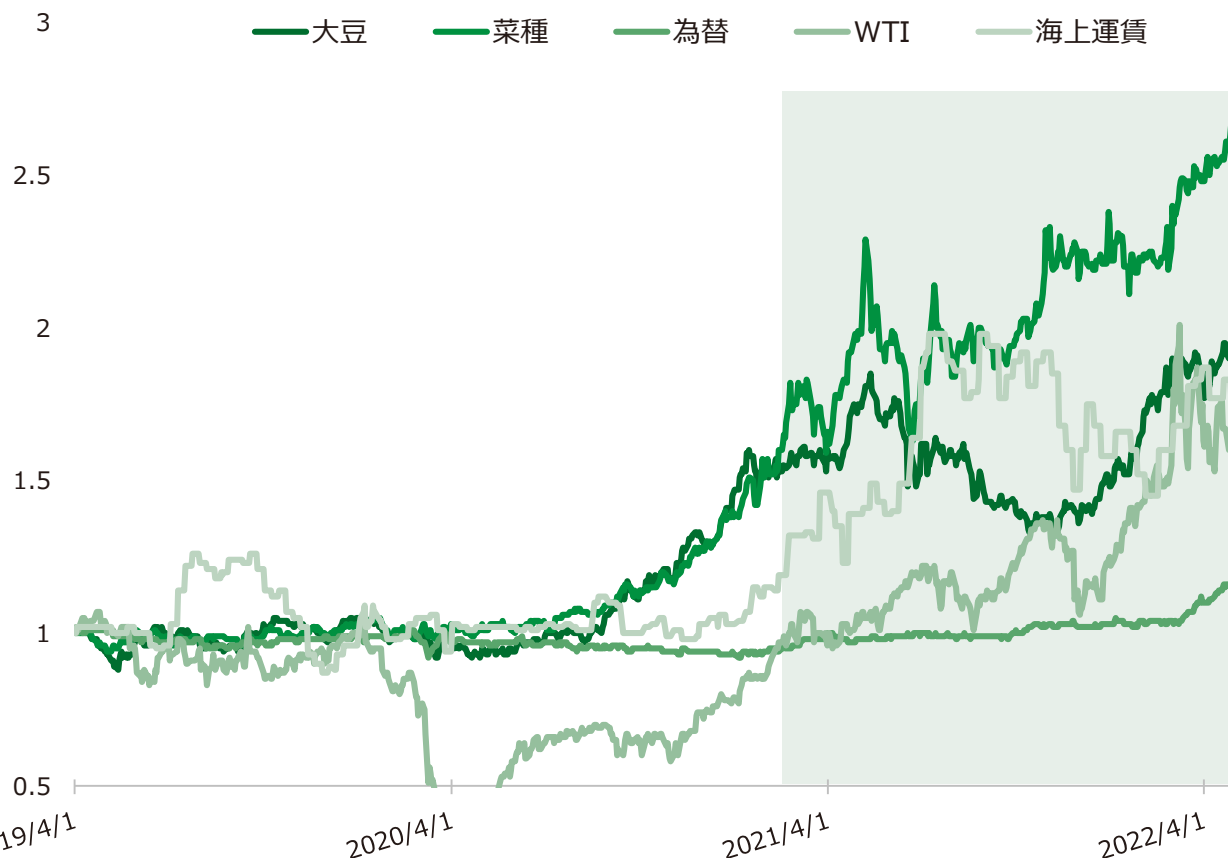
8.0%

外部環境の変化

- 食用油原料の構造的な需要の変化や世界情勢の動向など当社を取り巻く事業環境は大きく変化

2021年度まで

今後の見通し



上昇

- バイオ燃料用途拡大など世界的な植物油の需要増加にともなう需給ひっ迫
- ウクライナ戦禍にともなう原料などの高騰とその長期化
- ウクライナ情勢、日米金利格差による円安進行

第六期中期経営計画の見直し

中期経営計画の見直しに関するお知らせ

当社は、2021年5月20日に公表しました第六期中期経営計画「Transforming for Growth」(2021年度～2024年度)を見直すことといたしましたのでお知らせいたします。

記

<中期経営計画見直しの理由および今後の見通し>

当社グループは、2021年5月20日に、2024年度を最終年度とする第六期中期経営計画「Transforming for Growth」を発表し、各戦略目標達成に向け取り組んでまいりましたが、策定当初と比べて事業環境が大きく変化しました。

バイオディーゼル向けなど世界的な食用油需要の増大や主な原料生産国の天候不順、新型コロナウイルス禍に端を発する人手不足による減産といった複数の要因を受けた需給のひっ迫に加え、世界情勢が大きく変化したことで穀物や油脂原料の供給見通しが悪化したことから、大豆、菜種、パーム油をはじめとする原料相場は総じて高騰しております。

加えて、原油相場高騰によるエネルギーコストや物流費の上昇、為替相場の円安進行も重なり、食用油脂全般に及ぶ調達コストは当面は先行き不透明な状況が続くと見込まれています。

以上の環境変化を踏まえ、当社グループは第六期中期経営計画を見直すことといたしました。

見直しの内容については、今後の事業環境や展望を精緻に検証したうえで2022年11月頃を目途に公表させていただきます。

以上

2021年度の取り組み

第六期中計目標 2021~2024

2021年度の進捗

成長戦略

- JOYL ブランド価値向上
- 油脂汎用品の収益力改善
- 高付加価値品の拡大
- 海外・スペシャリティフード事業強化

- JOYL ブランドのローンチ
- 急激な原料価格高騰への対応
- 素材代替品や長持ち油の拡売
- 乳系PBF事業の新規参入

構造改革

- バリューチェーン&業務プロセス改革
- 資産効率改善

- コア事業への集中（ケミカル事業の売却）
- 生産体制の一部変更（若松工場）
- マーガリン事業収益化に向けた構造改革
- 遊休資産/投資有価証券の売却

経営基盤強化

- ダイバーシティ・インクルージョン
- リスク対応力・グループガバナンス強化

- ダイバーシティ宣言、推進室の設置
- ジョブローテーション、教育研修などを通じた人材育成の進展
- BCPの更新・地域や事業リスクに応じたグループガバナンスの整備

新年度からの取り組み

- 外部環境の変化へ対応するため足元の原料価格への対応と収益構造改革を喫緊の課題とし、スピード感をもって取り組む

2022年度

今後

原料価格高騰への対応

構造改革&事業基盤の強化

汎用油含む油脂製品の収益性改善

マーガリン事業の収益化

業務プロセス改革

成長の加速

既存の成長戦略の推進強化

成長領域の拡充

最適な事業ポートフォリオの構築

組織再編による推進体制の強化

収益構造改革を核とした事業基盤の強化

■ 汎用油含む油脂製品の収益性改善含む構造改革を着実に実行する

汎用油含む油脂製品の収益性改善

- 製品ミックスの改善
家庭用：付加価値型クッキングオイルへのシフト
業務用：長持ち油SUSTECの拡販
- バリューチェーン全体の構造改革（生産・物流網の最適化）

マーガリン事業の収益化

- 油種の削減など川上工程も含めたSKU削減による生産性向上
- 営業戦略の見直しによる収益化
- PF社※との連携による日本向け製品の製造・輸出によるコスト競争力強化とASEAN拡販による収益拡大

業務プロセス改革

- 基幹システム再構築を通じた業務プロセス改善
- DX推進による業務の効率化
- リモートワークの経験を活かした新たな働き方へのシフト

※ Premium Fats Sdn :マーガリンやショートニング製品（製菓・製パン用途）の製造販売

Topics

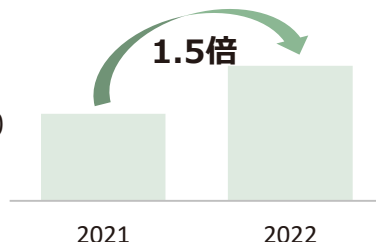
■ 成長への取り組みについても継続して進めていく

2021年度

家庭用 油脂

- 新たな価値を提供する環境配慮型紙パック製品：
スマートグリーンパック（SGP）の全国発売、
当社品取扱い量販店拡大

SUSTECシリーズの売上金額



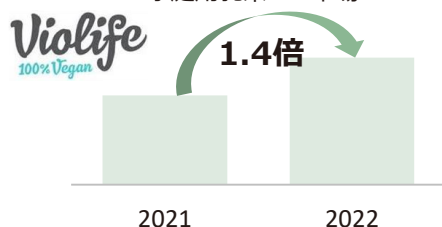
業務用 油脂

- 汎用油から長持ち油
SUSTECシリーズ（高
付加価値品）への切り
替え

乳系 PBF

- Violifeの発売
- PBチーズ市場の
成長牽引

家庭用乳系PBF市場



食品 素材

- テクスチャーデザイン：新たな価値を創造する新ブランドの
上市、B2B向けHP立上げ
- SOYシート：米国市場の需要回復による売上拡大
- ビタミンK2：menatto™ブランド強化による拡売

今後

- 差別化のある品揃えによる拡
販（SGP+既存ブランド）
- 「おいしさ×健康×低負荷」の
付加価値製品の開発



- 長持ち油 SUSTECシリーズ新規顧客の更なる獲得
- 食資源のサステナビリティ向上に貢献する調味油の開発
- 長持ち効果を更に高める製品・サービスの開発

- 家庭用商品全国展開スタート
- 初のTVスポット広告投入やデジタルマーケティング、PR活動
など積極的なコミュニケーション活動によりブランド力強化とト
ライアル促進

- テクスチャーデザイン：新たなニーズを捕らえた新製品の開発
やHPを活用した新規顧客の取り込み
- SOYシート：和食用途外への採用による北米市場での拡販
- ビタミンK2：海外展開加速



将来を見据えた日清オイリオグループとのアライアンス



取り組みの意義・目的

- 国内での油脂と油粕の安定的な供給
- 持続可能な国際競争力の強化
- 環境・社会課題解決

現在の状況

- 2021年7月～ 西日本エリアにおける搾油合併会社設立に向けたフィジビリティスタディを実施
- オペレーションや管理面での課題抽出・対応による円滑な合併の実現に向けた取り組みを継続中

搾油機能の全国統合を見据えた 西日本エリアにおける搾油合併会社設立の 検討開始



J-オイルミルズ倉敷工場

日清オイリオグループ水島工場
(搾油行程のみ)

西日本での搾油合併会社設立へ向けた検討開始

日清オイリオグループと業務提携

- 搾油行程の受委託
- 油糧種子や原料油脂の共同配船
- 原油と油粕の工場間での等価交換
- BCP体制の構築

2021年5月

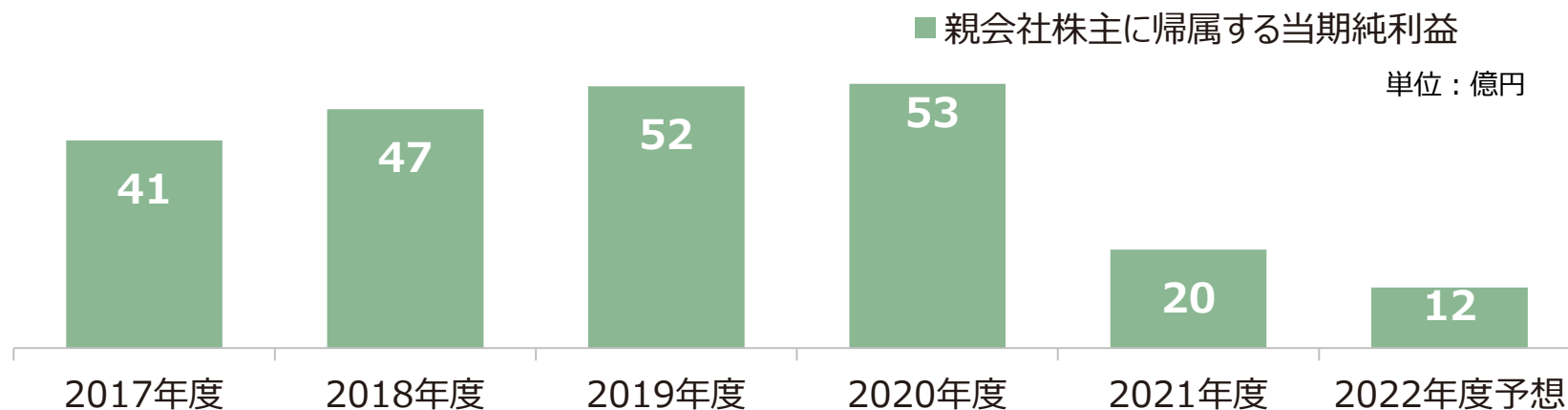
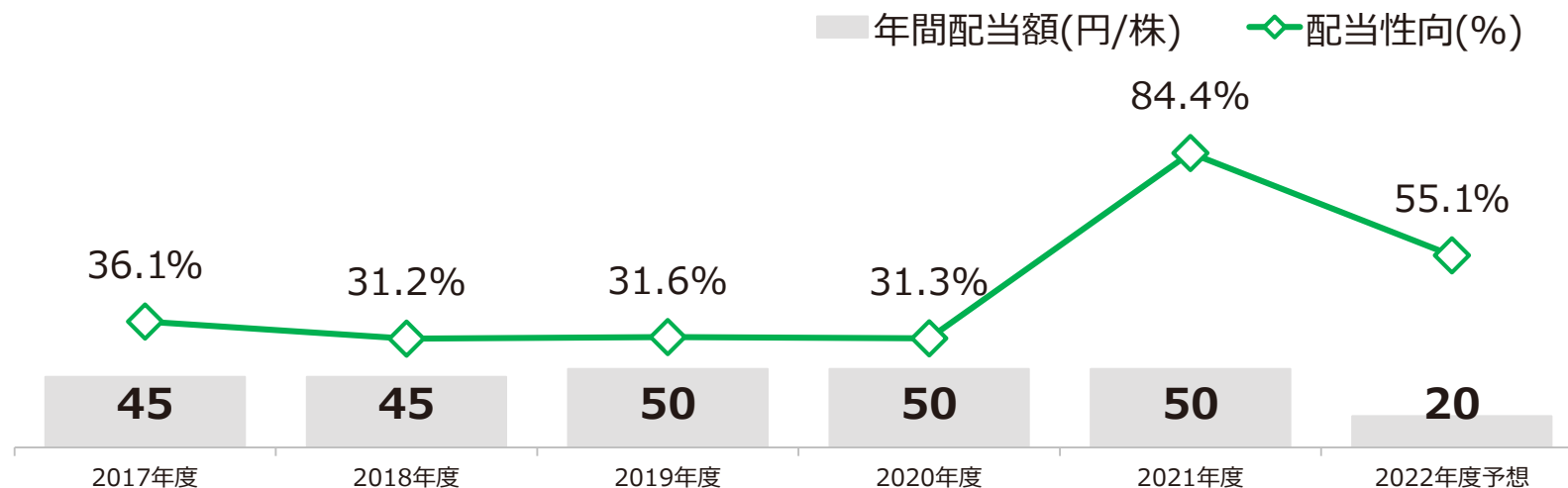
2020年3月

サステナビリティ

社会課題	取り組み	FY30 目標	SDGsへの貢献
気候変動	- GHG(CO₂排出)削減 - カーボンニュートラルに向けた検討開始 - TCFDに関するリスクと機会、シナリオ分析を実施、開示し、財務インパクトを試算/開示準備中	- CO₂排出量50%削減 (Scope 1+2 FY2013対比) - ノンフロン化(低GWP含) FY50まで ● CO₂排出実質ゼロ達成	  
サステナブル調達	- サプライチェーンのESGマネジメント体制構築 - 人権への配慮 - パーム油トレーサビリティ向上、認証油供給体制強化	- サステナブル調達の進化 - 農園までのトレーサビリティ100%	  
ダイバーシティ&インクルージョン	- 組織風土改革 - 人財育成・マネジメント改革 - ダイバーシティ推進 - 外部プロフェッショナル人財	- 女性管理職比率30% - 外国人の登用	   
サステナブル商品開発	- 環境アセスメント運用開始 - 環境配慮型容器開発 - カーボンフットプリント認証取得 - トランス脂肪酸低減	- プラスチック廃棄ゼロ化 - 自社包材への循環採用開始 - 廃棄物ゼロエミッション	 

株主還元について

- 連結配当性向50%を目安とし、一株当たり年間20円(うち中間配当10円)を予定



Agenda

- 1 2021年度 通期決算概況
- 2 2022年度 業績予想
- 3 中期経営計画の見直し
- 4 参考資料

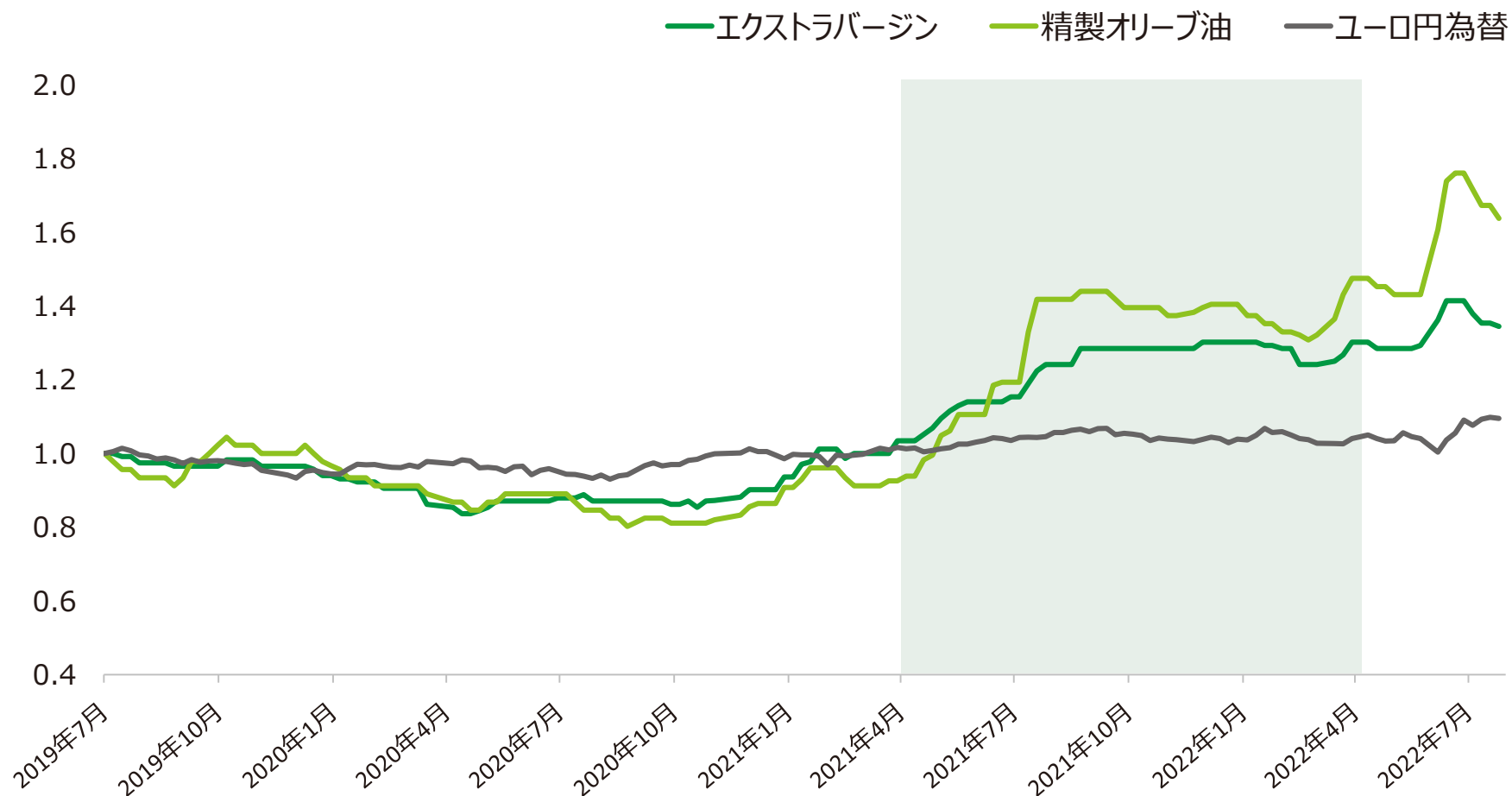
大豆、菜種、為替(米ドル)の相場動向

* 原料調達状況に近づけるため、相場データを3ヶ月ずらして表示(2019年4月を1とする(図中では2019年7月を1となる))

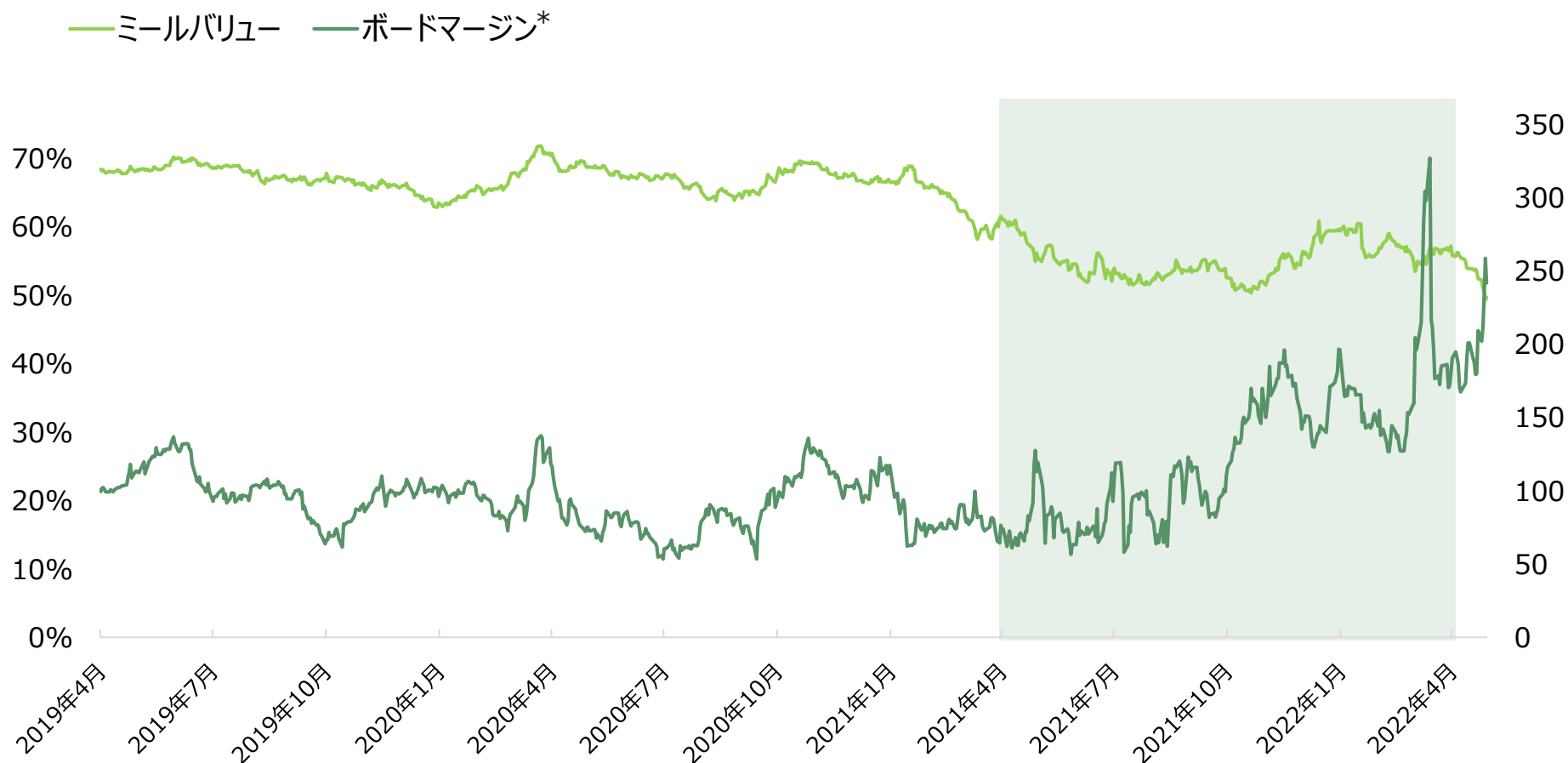


オリーブ、為替(ユーロ)の相場動向

* 原料調達状況に近づけるため、相場データを3ヶ月ずらして表示(2019年4月を1とする(図中では2019年7月を1となる))



ミールバリューの動向



*シカゴ大豆定期1ブッシェルから産出する大豆油と大豆ミールの価値の合計と大豆1ブッシェルの価格の差

2021年度 市場環境

【家庭用油脂 購入金額ベース（平均購入規模）】※単月比較

単位：％

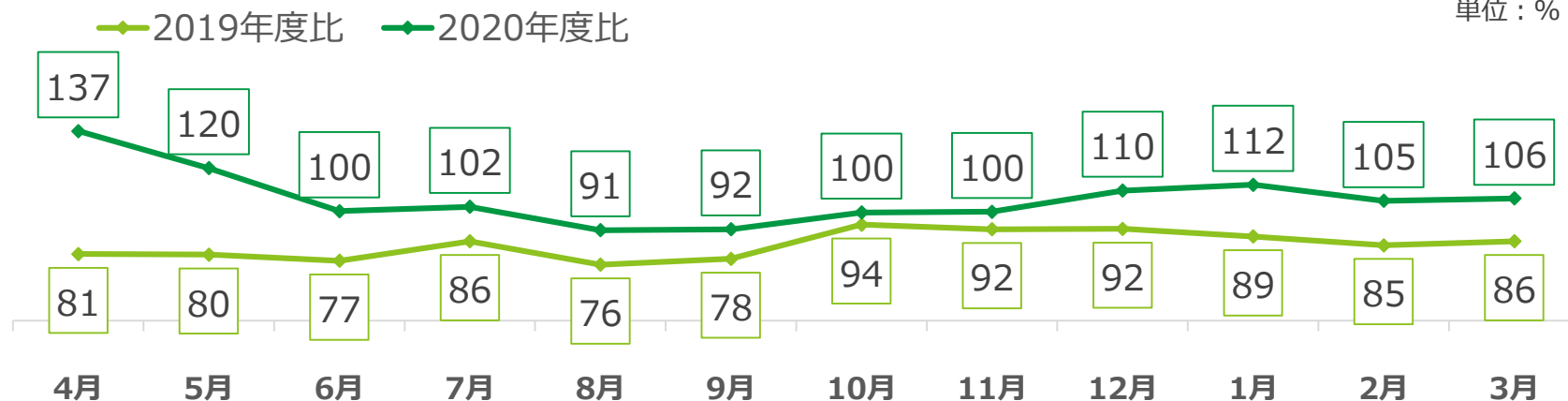


※ INTAGEデータ（油脂市場：2019年4月～2022年3月）を基に当社推定

【業務用油脂 外食産業市場動向調査 売上高】※単月比較

【全体】

単位：％



※出典：日本フードサービス協会 外食産業市場動向調査

原材料動向

■ 外部環境：原料・為替状況

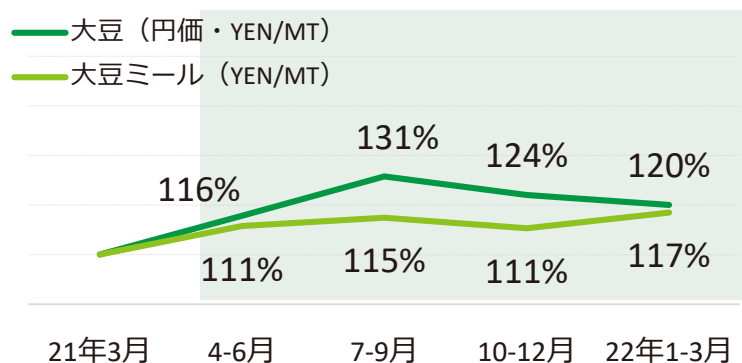
	22'1Q		22'2Q		22'3Q		22'4Q	
	実績 (前年)	対前年差	実績 (前年)	対前年差	実績 (前年)	対前年差	実績 (前年)	対前年差
大豆 ¢ /Bu ^{※2}	1,559.0 (1,391.6)	+167.4	1,700.8 (1,497.3)	+203.5	1,700.8 (1,358.6)	+342.2	1,700.8 (1,254.3)	+446.5
菜種C\$/MT ^{※3}	1,057.3 (737.7)	+319.6	1,148.6 (864.7)	+283.9	1,148.6 (885.4)	+263.2	1,148.6 (993.7)	+154.9
ミール1-%	57.0 (63.8)	▲6.8	56.7 (55.9)	+0.8	56.7 (53.2)	+3.5	56.7 (54.8)	+1.9
海上運賃us\$/t ^{※4}	77.8 (58.2)	+19.6	87.0 (68.4)	+18.6	87.0 (89.6)	▲2.6	87.0 (82.4)	+4.6
為替レート ^{※5}	117.3 (107.0)	+10.3	126.0 (110.5)	+15.5	131.0 (111.1)	+19.9	131.0 (114.7)	+16.3

※1:搾油原料の買付けは基本的に約3カ月前の時点にて行っており、本図では各期の業績に影響のある期間相場の平均値を示しています

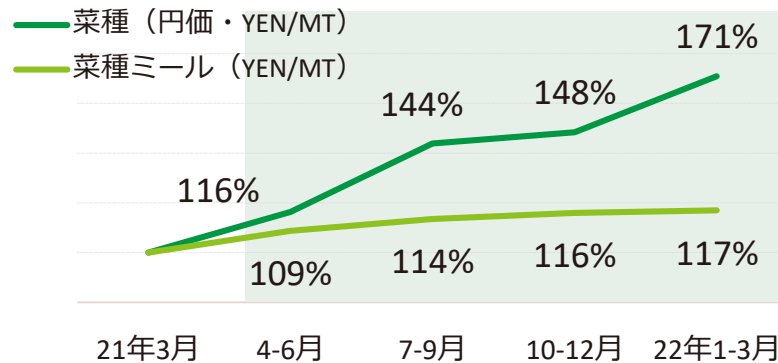
※2:シカゴ相場 ※3:ウィネベグ相場 4Qは10/1以降の平均値 ※4: US Gulf-Japan PANAMAX ※5: 為替TTSレート

■ 当社実績：原料価格推移

【原料価格推移：大豆・大豆ミール】



【原料価格推移：菜種・菜種ミール】



※2021年3月を1として算出（当社実績）

価格改定状況

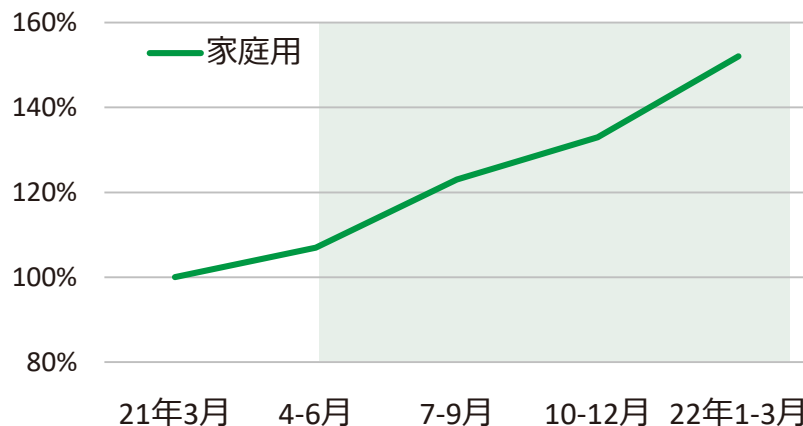
■ 価格改定

➤ 油脂で7回（うち1回は菜種油脂のみ）、油脂加工品で3回の価格改定を実施

油脂		油脂加工品	
改訂日	対象/額	改訂日	対象/額
2021/4/1	家庭用/業務用/加工用油脂 30円/kg 以上	2021/4/1	業務用マーガリン25円/kg/業務用ショートニング30円/kg以上
2021/6/1	家庭用/業務用/加工用油脂 30円/kg 以上	2021/10/1	業務用マーガリン25円/kg/業務用ショートニング30円/kg以上
2021/8/2	家庭用/業務用/加工用油脂 50円/kg 以上	2022/2/1	業務用マーガリン40円/kg/業務用ショートニング50円/kg以上
2021/11/1	家庭用/業務用/加工用油脂 30円/kg 以上	2022/5/9	業務用マーガリン65円/kg/業務用ショートニング80円/kg以上
2022/2/1	家庭用/業務用/加工用油脂 40円/kg以上※1	※1 菜種油脂製品のみ対象	
2022/4/1	家庭用/業務用/加工用油脂 40円/kg以上※2	※2 2022/2/1に改訂した菜種油脂製品を除く全商品対象	
2022/7/1	家庭用/業務用/加工用油脂 60-400円/kg以上※3	※3 全商品対象	

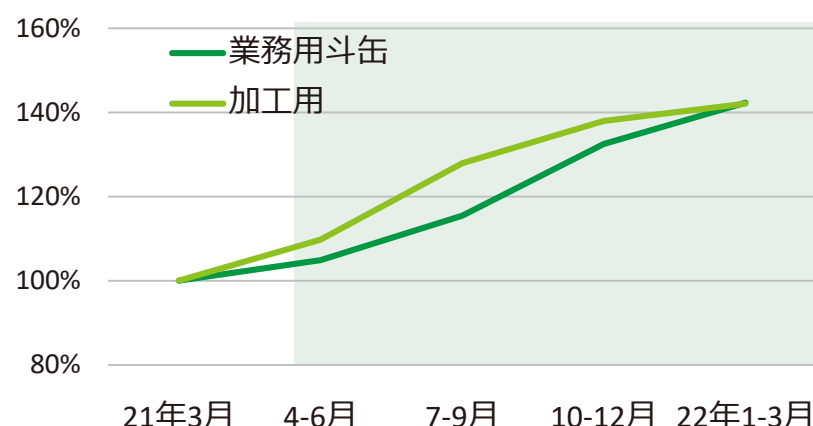
■ 価格改定推移（外部データ）

【家庭用油脂製品】



2021年3月を1として算出
出典：INTAGE（油脂市場:2021年3月～2022年3月）
当社ベーシックオイル平均単価トレンド

【業務用油脂製品】



2021年3月を1として算出
出典：日経相場情報より



Joy for Life